

平成28年10月 国見町教育委員会 会議録

- 1、召集日時 平成28年10月14日（金）午後6時30分
- 2、召集場所 国見町役場 大会議室（2階）
- 3、議席指定 1番委員 石川 博利
2番委員 志村 裕美
3番委員 高橋 幸子
4番委員 赤坂 正行
5番委員 岡崎 忠昭
- 4、議事録書名人 1番委員 石川博利委員 4番委員 赤坂正行委員
- 5、欠席委員 なし
- 6、説明のため出席

教育次長兼学校教育課長	引地 由則
幼児教育課長	中田 利枝
生涯学習課長	羽根 洋一
学校教育課指導主事	宍戸 正幸

- 7、書 記 学校教育課主任主査兼学校教育係長 黒澤敦子
- 8、開 会 午後6時30分
- 9、議題の上程

○議案第16号 平成28年度社会的課題に対応するための学校給食の活用給食検討委員会設置要綱の制定について

（事務局説明）

石川委員：第3条組織について別表にあげる職にあるものとは。

引地次長：桜の聖母短大教授、助教授、幼、小、中学校の養護教諭、学校教育係長、幼児教育係長、給食センター調理員、県健康教育課主任栄養技師の9名の構成である。

石川委員：所掌事務に6次化商品を活用した給食献立の検討とあり、そういう情報を取りいれやすい立場の者が委員として選定されているか確認した。子どもの食育に町の6次化を有効に活用してほしい。

引地次長：食育は地産地消の部分について盛り込んでいる。

高橋議長：農家や保護者の代表などは委員に入らないのか。

引地次長：本体として県主催の推進委員会があり、そこで委員となっている。推進委員会で食品ロスや地産地消を協議して、給食のメニューにどうやって取り入れていくか検討する委員会である。

高橋議長：承認してよいか。（異議なしの声）

高橋議長：議案第16号は承認された。

○議案第17号 国見町文化財センター管理運営委員会設置要綱の制定について

(事務局説明)

高橋議長：運営委員会は、定例会なのか。それとも必要に応じて開催されるのか。

羽根課長：年2回程度に開催して、展示物の年間計画、運営上の問題を協議いただく。今回は、今月末から来月初めまでに開催して、初回であることから愛称決定と土日の管理について実質的な協議をして、12月以降のオープンに向けてきちんとした形で運営していく考えである。

高橋議長：承認してよいか。(異議なしの声)

高橋議長：議案第17号は承認された。

10、協議

1) 総合教育会議に向けて(事務局説明)

2) 教育ビジョンの見直しについて(教育長説明)

高橋議長：国の施策や目標を示されても、それを都や市の子どもと国見町の子どもを同じに考えてよいのか。

岡崎教育長：子どもにとってベストは何かという観点で教育を進めていく。子どもにどんな力をつけるか、例えばよく「グローバル化に対応した力をつけるべき」というときに、「外国に行くつもりはないからあまり関係ない」という話もあったりするが、「外国に行くこと＝グローバル化の必要性」ということではない。少子化や国際化が進む日本では「国内にいて外国人とチームを組んで仕事をしたり、あるいは競争したりする」社会にもう現になっている。そういう時代を子ども達は生きていかなくてはならない。対応できる子どもを育てるにはどうしたらよいか。将来的に子どものためになる観点が必要。一方、子ども時代はゆとりの中で豊かな人間性を育むという視点ももちろん必要と思う。現在の状況を見ると高校や大学を卒業した途端にととも厳しい現実突き当たっているのが実情。学校を出て社会で活躍できる人間になるには、幼小中高時代の教育、子育てに掛かっている。国見町の英語教育は幼稚園から外国に親しむ観点で予算をとり行っている。単に英語教育ではなく、これからの時代を見据えたとき、英語は理解できている前提の時代である。今の子どもが卒業して後の社会はそうなるっていく。

高橋議長：懸念していることは、そのように小中高で教育しても、大学などで町を出ていき戻ってこない。国見町で行う教育を考えたとき、そこまで考えなくてよいのか。世界に羽ばたく子、大企業で通用する子、立派な子どもを育てて、子どもは町を出ていき、戻ってこない。どの世代をみても外に向かった子どもを育てるのも大事だが、それと同時に日本の文化や国見町の良いところを理解して地元に残ってもよいと考える子どもを育てることも必要でないか。

岡崎教育長：育てた子ども達がほとんど地元に残れないという状況は大変に残念に思う。力をつけた子ども達が地元を大切に想う心を育てることがまず大切だと思う。フィリピンのセブ島で高等教育、特に英語教育は有名だが、ここで力をつけた若者はもちろん世界に羽ばたく子どもも多いが、今はネットの時代であり地元で起業したりする若者も多いと聞く。地元において世界と結びついた仕事をしている人も多いと聞く。国見の教育ビジョンの中

で特に力を入れていることが「地域を愛する子ども、地域から愛される子ども」の育成である。地域と関わり、地域の皆様に関わっていただきながら子ども時代にしっかりと地域のよさを体験できるように進めている。地域のよさを十分に味わいながら将来に備えたしっかりとした力を育むことが大切と思う。地域から出ても地域に残ってもこの国見町のために頑張る人間に成長してくれると思う。

高橋議長：北海道、九州などは農業が魅力でUターンが多くなっている。若冲や浮世絵など日本の文化が外国から評価されて初めて魅力が理解されるように、国見町に魅力があれば、その魅力を発信して自分の生まれた町がよかったと思える一つの方法になる。長期的なビジョンを立てるときに、国の施策に則ってやるのがよいのか考えなくてはいけない。

岡崎教育長：国見町の子どものためにどうということが一番大切か方向性を見据えて施策に結び付けていく。国見町は農業の町であるが若手は少ない。農業も力のある人でないと経営的に成り立たない時代であり、いろんな面で子どもに力をつけさせる。生涯学習課の事業「ジュニア応援団」で生産農家と一緒にやってきたが、その方はしっかりとした力があり農業を継いでいる。Uターンで農業を継いだとしても個人に力がなければ成功しない。地域に愛着を持ち、しっかりとした力をつけ、豊かな人間性を育むことが地域を重視することになる。

高橋議長：この町で生活が成り立つことが条件で、生産者はすごく豊かに過ごしている。

石川委員：地域としての国見もあれば、職業を今までの一律の考えでなく、そういうものを社会で独立して生活していく会社勤めでも良いが、いろいろ選択するときに農業をやるなら地元でやろうかなと選択する子どもを育てたい希望がある。国見に生きつく場合もあり国内海外もあり、それが大きくグローバルだと思う。国見町の良さは比べている人はわかるがずっとそこにいる人はわからない。

志村委員：自分の子育ては、子どもが何に興味を持つかわからないので、学校で田植えや英語の先生が授業したり、いろんなことを体験している。途中で挫折することもあるだろうが、この仕事に就きたいと夢を持って、高校、大学に入っている。国見の教育を受けて、どうやって国見に戻ってくるのか。自分の人生を送るなかで興味を持って外に出ているなら仕方がないと思う。大学ではどの子も英語で苦労している。国見で育った子が国見に戻って生活してくれれば一番だが、親としては葛藤する。母親が「どうぞ自分の好きなようにどこに行っても良いから」と思っているうちは子どもが戻ってこない、母親が「国見に戻る選択肢もある」と常々言わないと戻ってこないと夫から言われた。母親なりにしっかりと考えていかないと。

石川委員：国見町の人みんながそう思っていないと。

高橋議長：社会教育の先生と話したテーマがその話であった。今の進路をいつ決めたか。おそらく中学、高校ではない。私がこの町にいるのは、憧れる人がいたから。それが親であり地域の人であり先生であり、自分が憧れる大人がいて、この人のところにもう少しいたいと思うことが若い人をここにつなぎとめる手段である。すべてではないが。そのために大事なことは生涯学習で、今の大人がキラキラ輝いていることが大事だと結論づいた。その地域の大人のなかには母親も含まれる。英語については、英語圏で勉強すれば確か

に話せるようになるが、日本語を上手に話すALTにどこで日本語を覚えたか聞くと大学という。本人のやる気も大事である。

赤坂委員：私自身が外に出たかったのに出してもらえなかったから、子どもには出ていいと言っているが、近くにいてほしい。自分には縛りがあったので子どもには自由に決めてほしいと思っている。スポ少も昔はソフトボールしかなかったが、今はいろんな選択肢がある。学校のなかでいろんな選択肢から考える力、例えば、英語もそうだが勉強だけではなく、地域の歴史もいろんなことを吸収でき、学べるなかで自分がやりたいから行きたい環境ができればよい。

高橋議長：講演で風の盆を紹介した。女の人は25歳までしか踊れないが、小さい頃から踊っていた女の子が地元の保育所に勤めて踊り続けた話であり、地域の文化がその人の将来を決めた。太々神楽を継承したいから小坂に残るということもある。今あることを一生懸命やることを口で言わなくても大人が楽しそうにやっていたら子どもに伝わる。

岡崎教育長：家庭教育では、大人も楽しく学んで子どもに魅力を伝えていかないと子どもの選択肢は拡散しすぎるか少なくなるかのどちらかである。

志村委員：国見の子ども達はいろんなことを体験させてもらっている。例えば、前回参観した国見小6年の国語の授業では、桜の聖母短大生とコミュニケーションをうまくとれるか見ていたが、大学生と子ども達は一生懸命に話をしてメモをとり、発表を聞いていた。中学3年生はブリティッシュヒルズに行き、1日英語体験している。今の国見町の子はいろんな体験している。何年か前よりはるかに子どもたちが外の世界、いろんな年代の人とふれあって意見を言うすごく大事なこと。人が多くなればなるほどなかなか自分の意見が言えなくなると思うが、国見小は3クラスあるが、そんなことはない。経験をいろいろすれば、自分の意見も言えるし堂々とやれる。先生も努力されているが、そういう経験を良いと思えば、今のような感じで体験させてもらえれば、成果はまだまだ先かもしれないが、これからの子どもたちは楽しみである。

高橋議長：発表することが苦手であったが、大人が教えるとか導くのではなく方向性を示す。発表できる子が目標の一つになってきているので、大人が上から教えこむのではなく方向性を正しく示す。それが教育ビジョンである。その方向性をみんなで確認していく。

石川委員：統合する前の小規模校には小規模校の良いところがあり、過疎化の部分で一つにするときに統合によって小規模校の良いところが国見小に引き継がれ体制も学校でうまくいっている。

志村委員：幼稚園の先生、学童の先生から発達障害的な子が増えてきていると聞いた。

岡崎教育長：全国的な傾向として、特別支援教育の対象となる児童生徒は36万人に上り、そのうち通級による指導を受けている児童生徒は、10年間で2.3倍に増加している。このほかにLD（学習障害）やADHD（注意欠陥／多動性障害）、高機能自閉症児など発達障害が疑われる児童・生徒の出現率は6.5%に及ぶことが示されている。また、社会生活の変化、家庭の生活の変化等により、保護者の帰宅が遅くなる結果、夕食・就寝・朝食のリズムが崩れ、環境のせいで学習が遅れたり身体機能の発達が遅れたりしているのではないかと疑われる事例も増加している。本町においても小学校に特別教育支援員3名、

中学校に1名配置している。

志村委員：先生以外に補助につくことは、難しいのか。手を掛ければもっとやってあげられるのにと先生の葛藤がある。

中田課長：支援が必要な子には、先生が一人ついて常に行動している。

高橋議長：将来のビジョンに向かってこういう町、こういう子どもにしたいから何をやるかを考えて提案してほしい。

1 1、教育長事務報告

岡崎教育長：第1回桑折町国見町小学校陸上交歓会では、お互い励みになりよかった。総じてよい成績であった。10月1日に国見ジュニア応援団として子ども達が岐阜県池田町に行ってきた。10月3日に小学5年生が稲刈り体験した。

1 2、各課からの報告

学校教育課：①給食検討委員会で検討したなかで食卓図鑑からアレンジした献立が採用された。

幼児教育課：①第1回国見町子ども・子育て支援推進協議会について

②ももたん広場の利用状況とハロウィンイベントについて

生涯学習課：①ジュニア応援団活動について 岐阜県池田町訪問、世界遺産サミットin平泉。

②オリンピック・デイ・フェスタの開催について 小中学生130名参加あり。

③市町村対抗福島大会

④第45回国見町文化祭について

⑤国見町内一周駅伝競走大会について

⑥第18回青少年健全育成推進町民大会について

⑦第35回伊達地方一周駅伝競走大会について

⑧ホール事業について 宝くじ文化事業「森山良子」コンサート。

⑨平成29年国見町成人式について

1 3、その他

引地次長：明日15日は、小学校学習発表会。16日は中学校「柏葉祭」

次回の教育委員会は11月14日、午前10時に中学校開催予定。

1 4、閉 会 午前8時05分

上記記録の正確なることを認めここに署名する。

平成28年10月14日

議事録書名人

1 番委員

4 番委員

会議書記

主任主査兼学校教育係長 黒澤敦子